

送辞

肌をさすような冷たい外気もいつの間にか和らぎ
吹く風に春の訪れを感じるようになりました。

三年生の先輩方

ご卒業 おめでとうございます。

長いようで短い三年間。

目を閉じれば様々な思い出が

浮かんでくるのではないのでしょうか。

二年前の入学式。

静かな体育館、重々しい厳粛な空気。

わたしたちは不安を感じずにはいられませんでした。

そんなわたしたちを優しく迎え入れてくださった先輩方。

あのときから、先輩方はわたしたちのあこがれの存在となりました。

部活動

毎日一生懸命練習に取り組む先輩方。

汗を流し、ときには涙を流し、

わたしたちに本気になることの大切さを教えてくれました。

最後の大会

笑顔で終わりを迎えられる部活もあれば

悔し涙をのんだ部活動もあったでしょう。

しかし、そのとき見せた先輩方の姿は、

ひときわ輝いて見えました。

先輩方が見せてくださった喜びや悲しみ。

今でもわたしの胸にとどまり続け、忘れることができません。

もっともっと強くなりたいと思いました。

学校祭

素晴らしいものにしよう。

そのために毎日必死に計画をたて、練習し、

声が枯れるほど全力を尽くす姿。

みんなが分かるまで側に寄り添い、

あきらめることなく付き合ってくださいる姿。

学校祭にかける熱い思いをひしひしと感じました。

どこかで面倒くさいと感じていた練習も、
いつしか「頑張って成功させたい」と
前向きな気持ちになっていました。
全力で頑張ることは周りの人の心をも動かす。
そんなことが身にしみて感じられました。
解散式での先輩方の言葉を裏切らないように
来年も必ず学校祭を成功させてみせます。

今日までの二年間、
わたしたちは、先輩方のように
何でも受け止められる、後輩に慕われる人になりたいと
その大きな背中を必死に追いかけてきました。
まだまだ未熟なわたしたちですが、
「弥中の伝統」というたすきを、
今、受け取りました。
このたすきの重みをしっかりと感じながら、
本気で努力できる弥中生として、
その役目を果たしていきます。

先輩方、次に待っているのは
高校や就職といった新たな環境でのスタートです。
そこには、新たな喜びや驚き、
それと同じくらいの不安や苦勞もあることでしょう。
しかし、わたしたちをまとめ、様々な苦難を乗り越えてきた先輩方なら
それを乗り越え、この先も輝き続けることだろうと信じています。
心から尊敬し、応援している先輩方に
最後にある実業家が言ったこの言葉を贈ります。
「どんな仕事でも喜んで引き受けよう。
やりたくない仕事も
意に沿わない仕事も
わたしを磨き強くする力を秘めているのだから。」
先輩方のさらなる活躍と輝かしい未来を願っています。
先輩方、本当にありがとうございました。

平成三十年 三月六日

在校生代表 永田 都羽